

第11回法人合同研修報告 (『食べる力』はこどもの「成長・発達」の原動力)

島田福祉会では職員の学習意欲と機会を多く保障し、職員の資質向上に努めてまいりましたが、更に法人全体での職員教育の充実を図るため、2014年度より「法人合同研修」を開始いたしました。2019年6月22日に行われた第11回目は、口の健康、摂食嚥下の諸課題などに関して幅広い実績をお持ちの、**芳賀定先生**をお迎えしてお話を伺いました。

芳賀先生には、東社協その他で講師としてご指導いただく機会もあり、職員達の推薦もあって今回の研修の講師としてお招きすることになりました。穏やかな語り口で実例を挙げて話して下さるので、いわゆる「座学」が苦手な職員も、集中して聞き入っていました。栄養だけではなく、発語や情緒の発達にも大きく影響していく、「生活の中の食事」の大切さを改めて実感し、子どもの食事に大きな責任を持つ保育園職員としての自覚を高めるきっかけにもなりました。「もっとお話を伺いたかった」という声も多く聞かれ、職員達の「子どもの食環境」に対する積極的な学びの姿勢につながったであろう事を何よりの成果と受け止めております。



※上記標題をいただいたときに、サブタイトルを「**島田福祉会から発信しよう!!—子どもの笑顔は家庭と園（地域）から—**」としてくださったことで、研修への意欲が高まった職員もあり、先生のご配慮に心から感謝しております。

「今回学んだことを、今後の業務にどう生かしていこうと思いますか?」

(★は島田、★は駅前、★は北六丁目、★は北嶺町、★は北嶺町第二)

- ★「食欲・意欲がない」「よく噛まない」「偏食」等の目の前の状況のみにとらわれず、その背後にある子どもが抱えている問題、家庭環境がどうなっているのかをしっかりと把握した上で、子どもや保護者を支援していきたいと思う。(保育士)
- ★「フルーツだけ食べたい」「野菜キライ」という子に対して、苦手なもの、食わず嫌いしているものを「ひとくち食べてからね」等と言ってしまいがちですが、「これとってもおいしそう!」「一緒に食べてみよう!」など、まず食べてみたいと思えるような楽しい言葉かけができるようにしていきたいです。(保育士)
- ★偏食や食欲不振、食に興味がない原因を考え、少しでも改善できるようにしていきたい。離乳食の段階から一つ一つの口の動きを大切にし、咀嚼を促しながら援助していこうと思う。(保育士)
- ★食べ方が上手でない子へは、くすぐりっこやにらめっこなど、遊びを通して表情筋をきたえていけたら良いなと思います。また、保育中に自分が実践するのはもちろんのこと、保護者へも『しつけよりも、優しく、楽しく、おいしく食べることが栄養源』なのだと思わせていきたいです。(保育士)
- ★栄養バランスやカロリー計算も大事だが、食事環境も子どもの成長に大きく関わると改めて感じました。保育園では、つい食事マナーばかり目を向けて、注意の声かけをしてしまいがちでしたが、子どもへの関わり方をもう一度見つめ直そうと思いました。(保育士)
- ★ただ共に食べるだけでなく、食べることで五感などをより育てられるように意識して関わっていきたい。また、幼児には噛むことの大切さも伝えていきたい。(保育士)
- ★子ども達とクッキングや身体について話すときに、口腔機能については意識して話していこうと思う。「咀嚼」には7つの役割があることと、その集大成を伝えていきたい。(保育士)
- ★食事環境は「楽しく」「おいしく」が大事であることを改めて学ぶことができたので、食べる時のマナーを伝えつつも、食事の時間が楽しくなるように心がけていく。(保育士)
- ★日々の食事の援助の時に、子ども達の口の動きをよく見ていきたいです。「食べる」行為だけでなく、その子の環境全体を見て考えていくという言葉が大切にしたいと思います。(園長・主任・副主任)
- ★生まれて生きていく中で、食べる事への大切さや、食べることからさまざまな発達へと繋がることを知ったので、離乳食の与え方や押しつぶし食べができていくかを確認し、食事中は楽しい雰囲気作りに努めていきたい。(保育士)
- ★素材そのもののおいしさを伝えたり、良く噛むことを促し、言語の発音の発達につなげていきたいと思いました。また発達段階にあった基本的欲求・安全欲求を満たしていけるよう関わっていきたい。(保育士)
- ★咀嚼について、歯が完全に生えそろうのが3歳頃なので、1歳児は噛む力も弱いと感じました。詰め込みなどを気にしながら、ゆっくり咀嚼できるように配慮していきたいと思います。(保育士)
- ★今はどのような時期なのかなど、発達段階を改めて学び、意識できるようにしたいと思いました。また、愛着関係をしっかりと築き、将来につなげられる保育をしたいと思いました。(保育士)
- ★今回の講義を聴いて、配慮児の発達段階もこのくらいのところにいるのかな?と感じられた。他の子を含め、よく噛むことの大切さを毎日の食事や食育の中で伝えていきたい。(保育士)
- ★食べること、意欲などがさまざまな発達に繋がっていくことがよく分かる研修でした。家庭より長く過ごす保育園内での生活の中での関わりを丁寧にしていきたいと思いました。(園長・主任・副主任)
- ★口腔機能と聞くと、食べることや言葉のことを思い浮かべましたが、呼吸や感情表現、運動面にも関係しているというところに、はっとする思いでした。三次的循環反応の時期に当てはまる子どもの姿を受け止めていきたいと思います。(保育士)
- ★滑舌の善し悪しも食事の仕方や口の動きで変わってくることに驚いた。自分の受け持つクラスにも滑舌の悪い子や八行・夕行・サ行がうまく言えない子がいるので、口の動きや普段の食事を見直すきっかけを作っていきたいと思いました。(保育士)
- ★子どもの口腔機能が今の段階にあるのか、しっかり分かった上で適切な調理形態で提供していきたいです。また、食環境についても、保護者への情報提供や、楽しく食べる工夫を考えていきたいと思います。(栄養士・調理員)
- ★子ども達に食事を提供する立場として、咀嚼を考えた食材・調理法を実践し、食育活動として子ども達に咀嚼の大切さを伝えていきたい。離乳食についても、味覚が育つ時期としてとても重要な責任があると感じ、その思いをもって給食を作っていきたい。(栄養士・調理員)
- ★味覚の発達には薄味で良いことを再確認し、旬の素材を生かした給食を今後も提供していこうと思いました。また、子ども達とのふれあいもより大切に、信頼関係(愛情)を築いていきたいと思いました。(栄養士・調理員)